

なみの会



東京理科大学理工学部建築学科地震工学系研究室 OB/OG 会 会報 2017年7月号



理工学部と私 ・原風景 井口 道雄

今年には理工学部開設 50 周年の記念の年に当たる。今回の「なみの会」は大きな節目の年の会となることから、この会報でもこの事に触れないで済まず訳にはゆかない。50 周年の記念行事は様々な形で既に始まっていて、昨年暮れであったと思うが、50 周年記念展示用パネル作成のための小文を求めに応じて寄稿したのであるが、出来上がったパネルを見ると、無残にも内容が大幅に縮小され、意に反するものとなって展示されていた。このままにしておくことは不本意という思いと、大げさに言えば、過去の出来事を歪めてしまうのでは、と懸念を持っていたのであるが、渡りに船というか、この会報の巻頭言を書く機会を与えられ、早速にその寄稿文に若干筆を加え、表題も「理工学部と私・原風景」としてここに再録することにした。以下は、理工学部創設当時を振り返っての私の感想文である。

『理工学部と私・原風景』

過去を振り返るのは楽しいことも多いが、時には苦い思いがよみがえることもある。理工学部開設 50 周年の記念行事に寄稿との依頼を受け、学部が開設されて間もない時期から非常勤講師を含め 40 年もの長きにわたり建築学科の教員として身を置いた一人として、開設当時の思い出の一端を記録として留めておきたい。

私が理工学部建築学科に関わりを持つようになったのは、昭和 45 年に半年間非常勤講師として教壇に立ったことにはじまる。イタリア政府留学生として帰国して半年後のことであった。非常勤が縁となって翌昭和 46 年に専任講師を拝命し、建築学科教員の末席に加えさせていただくことになった。当時 30 歳で新進気鋭と言えば聞こえは良いが、未だ学生気分が抜けきれない青二才の身で何コマかの授業と卒業研究の指導を行ったのである。着任した折に大学から与えられたのは、物置として使われていた半スパンの小さな部屋と、薄暗い部屋に置かれた片袖机と空の本箱一つで、机の上には大学の規定集の綴りが置かれていたのを覚えている。かくして研究室は零からのスタートとなったのであるが、この様な処遇は決して特異のことではない。新設学部の中で新たに研究室をスタートさせるというのは、全てが無からの出立になるのであって、その後当時の研究室諸君の協力を得て研究環境を徐々に整備する喜びを味わえたのは貴重な体験であった、と今振り返ってみてしみじみ思う。(次ページに続く)

野田建築 50 周年 大同窓会に集おう！ 永野 正行



昨年の本欄で紹介しましたように、東京理科大学理工学部建築学科は、本年で 50 年の節目を迎えました。昨年 10 月まで学科主任であったのですが、そのときに立ち上げた『野田建築 50 周年記念事業実行委員会』の委員長を、そのまま現在まで続けて仰せつかっております。本年 10 月 29 日(日)には理工学部建築学科の全研究室 OB/OG が一堂に集まる『大同窓会』を開催いたします。本年度の『なみの会』はこの懇親会との合同開催にしたいと思っております。大同窓会開催に当たっては、井口研 OB として涌井栄治さんと栗飯原功一さんにもご尽力いただいております。詳細は最終ページをご覧ください。なみの会の皆さんも是非とも参加してください。よろしくお祈りいたします。

上記活動の 1 つとして、過去 42 年間の卒業アルバムのうち、建築学科の部分をデータベース化しました。今回の特別企画として、ここから井口・永野研究室のメンバーを紹介しております。如何でしょうか。懐かしいのではないかと思います。私自身は理科大に着任してから 9 年経ちますが、卒業生の名前を入力している間に、その時その時の様々な思い出が蘇ってきました。着任当初は本当に何が何だか分からないまま走ってきた感じですが、井口先生やその後着任した助教の肥田さん、鈴木さん、学生の皆さんに大いに助けられてようやくここまで来たという感じでした。

こんなことばかりしているので、最近は研究に充てる時間がかかなり少なくなっています。2016 年熊本地震はあらゆる意味で重要で、震源近傍のパルス性地震動の成因解明などやることはたくさんあるのですが、なかなか検討が進まずに内心忸怩たる思いをしています。それでも昨年 12 月には地盤震動シンポジウムで熊本地震特集を主宰し、地盤震動・基礎振動地盤系小委員会の合同での開催にこぎつけ、熊本地震で起こったことを多角的に取りまとめることができました。会場の建築会館ホールには近年稀にみる 240 名を超える多数の参加者を集めることができ、大変好評でした。

研究室の学生たちも、査読論文への投稿、英語発表を含め大いに活躍しております。来年は研究室発足から 10 年目を迎えます。今までの理論、技術を継承するとともに、私自身も常に学びの精神で新しいことにチャレンジしていきたいと考えております。(永野)

(前頁からの続き)

着任早々に悩まされたのは学園紛争である。当時、学園紛争は各大学に蔓延していたのであるが、その騒動が新設早々の理工学部にも押し寄せていて、授業はもとより教授総会等の様々の会議の開催にも支障をきたしていた。中でも建築学科は騒動の火元になっていて、日々、対応に苦勞したのを思い出す。紛争と言う混乱の中で、大学がその使命である教育と研究という学問の場からほど遠い状況に置かれたのは悲しむべきことである。このような騒動から得るものは何一つなく、プラス面があったとすれば、大学あるいは学部学科がそれに対応する力を持ったということぐらいではなからうか。

新設の学部学科の教員が心を砕かなければならないのは、社会の認知度の向上を如何に図るかの一点にある。学部学科が社会に認知されていなければ、結局は学生の就職活動に深刻に影響するからである。このような状況にあって、草創期に於いては随分と学生の就職活動に力を注いだ思いがある。無論自力で就職戦線を勝ち抜いた頼もしい学生も多くいたのであるが、どのような経緯にせよ当時の卒業生の多くが社会の第一線で活躍しているのを見聞きするのはこの上ない喜びであって、同時に今の学部学科にとって掛け替えのない無形の資産となっているのである。

「始めがあれば、必ず終わりがある」は、わが恩師の言葉である。全くの真理に思えるこの言葉ではあるが、大学や学部の新設にこの言葉は当てはまらない。50年前の学部の開設は「始まり」であるが、それが継続し発展し続けることに「終わり」はない。(井口)

※井口先生の50周年記念インタビュー記事(文中の50周年記念展示用パネルとは別)は、大同窓会で配布される野田建築50周年記念誌『UNGA NEXT』にも掲載されます。

第3回なみの会 2016年9月24日(土) 開催報告

2016年9月24日(土)に第3回なみの会(井口研・永野研 OB/OG会)が開催されました。なみの会は、第1回(2014年9月)、第2回(2015年9月)ともに神楽坂の森戸記念館でおこなわれてきましたが、今回の第3回なみの会は東京理科大学葛飾キャンパスにて、葛飾キャンパス見学会+研究発表会+懇親会という形でおこなわれました。あいにくの雨模様でしたが、井口研第1期生から永野研現学部生まで多くの方が出席されました。

見学会(13:00～)では、図書館棟の現場所長をされた栗飯原功一さん(竹中工務店。昭和60年卒井口研OB)により、図書館棟を中心に、球体大ホールや大階段の構造・施工方法など、所長ならではの詳細な説明がありました。

研究発表会(15:00～)では、井口道雄先生、永野正行先生、九州大学に今年度から勤務された佐藤利昭先生、建築研究所の石原直先生から、それぞれの視点で2016年4月14日・16日に発生した熊本地震をテーマとした講演がありました。井口先生からは朝日新聞(5月14日朝刊)に掲載された熊本地震で現行の耐震基準で建設された建物も崩れたことの記事・井口先生のコメント、被災地に建てられていた粘弾性制震装置を使用した木造住宅の調査報告の紹介がなされました。永野先生からは熊本地震の概要として地震自体の特性、被害状況が報告されました。佐藤先生からは熊本地震による木質構造建物の被害・今後の課題について、石原先生からは熊本地震での鉄骨造建物と非構造部材の被害報告がなされました。

最後に懇親会(17:00～)が葛飾キャンパス内の食堂2階で行われました。各人の近況が報告され、あっという間に6時間が過ぎてしまいました。

今年は東京理科大学理工学部の創設50周年の年にあたり、井口研・永野研の枠を超えて、理工学部建築学科全卒業生を対象にした「野田建築50周年大同窓会」が開催されます。井口研・永野研 OB/OGのご出席だけでなく、皆様のお声掛けにより、より多くの建築学科卒業生が一堂に会することを願っております。(S60卒・涌井栄治)



現場を担当し図書館棟の案内をしていたいただいた栗飯原氏(左側)



2016年熊本地震についての研究報告をしていたいただいた佐藤先生(左上)、石原先生(右上)、井口先生(左下)



懇親会で全員の記念写真

2017年度 永野研究室メンバー

本年度、当研究室のメンバーに11名の卒研究生と社会人ドクターの飛田さんが新たに加わり、学生25人の大所帯になりました。研究班も昨年から1つ増え、超高層RC造班、地盤震動班、木造班、石原班(天井落下等の問題)に、免震班が加わりました。

学生が増え、年々にぎやか(うるさく?)になる研究室を、永野先生を筆頭に石原先生、肥田先生、鈴木のスタッフ4人体制で学生の指導にあたります。本年度も、OB/OGの皆様からの各種ご指導ご鞭撻をいただければと考えております。(鈴木)



新卒研究生配属時の集合写真(2017.4)



サクラの中でジャンプ!!! (2017.4)

学年	氏名	研究テーマ
社 D1	飛田 喜則	免震
M2	佐々木 茅乃	地震動
M2	佐藤 航平	天井
M2	田中 亮磨	木造
M2	西野 剛史	超高層 RC
M1	小江 優斗	地震動
M1	小川 一真	木造
M1	神戸 寛史	石原班
M1	佐藤 弘樹	地震動
M1	田代 信雄	地震動
M1	日野浦 雄高	超高層 RC
M1	山下 圭吾	石原班
M1	渡辺 眞伍	超高層 RC
B4	秋元 潤	木造
B4	荒田 芳信	木造
B4	片岡 卓也	地震動
B4	貴堂 峻至	地震動
B4	菅原 和正	木造
B4	高野 隼輔	超高層 RC
B4	高橋 和久	石原班
B4	田村 彩女	超高層 RC
B4	岡部 俊	石原班
B4	西浦 遼	免震
B4	羽津本 晃一	免震
B4	村田 将一	超高層 RC

連携大学院 客員准教授 建築研究所 石原直先生



1973年 栃木県生まれ
 2000年 東京工業大学大学院理工学研究科 博士課程修了 博士(工学)
 2000年 建設省建築研究所 第3研究部
 2001年 国土交通省 住宅局 建築指導課
 2002年 国土交通省国土技術政策総合研究所 建築研究部
 2011年~(現職) 建築研究所

2014年から連携大学院の准教授と非常勤講師を担当させていただいております。非常勤講師では、近年の地震被害や建築基準法の耐震規定、不評ですが(?)古典的なせん断棒の話などをしています。地震工学・耐震工学では入力多様さや復元力の非線形性のために建物応答も様々になり、理論だけで説明できる部分は多くはありませんが、社会に出たときの基礎体力が少しでも増えればと考えて講義をしています。連携大学院では主に非構造部材の耐震性関係、具体的には非線形応答での床応答スペクトルの評価や天井の耐震性をテーマとして学生さんとともに研究をしてきました。今後は構造躯体の地震応答等についても取り上げていく予定です。OB/OGの皆様にはなみの会等の機会にお目にかかることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。(石原)

社会人博士後期課程 浅沼組 飛田喜則氏



1967年 京都市生まれ
 1992年 大阪工業大学大学院修了
 1992年 浅沼組入社
 現在に至る

今年度から社会人博士後期課程として永野研究室にお世話になります。研究内容は「傾斜基盤を有する地盤上に建つ免震建物の動的特性および杭の設計法に関する研究」です。浅沼組に入社以来15年間、技術研究所へ配属となり地震動の研究を初め、振動測定、構造実験、解析など様々なことを行ってきました。しかし、20年近く蓄積した観測地震記録がありましたが、私はずぼらなものでほとんど整理ができていませんでした。それを先生に紹介したところ、大変興味を持っていただきました。それが今回の研究の対象としている、支持層が傾斜しているため直接基礎と長さの異なる杭基礎で支持された免震建物です。これには、地震・地盤・杭・免震など様々な要素が含まれています。今後、この建物について、観測波の分析と、解析を交えての動的挙動の研究を進め、さらに設計手法なども見据えて整理した論文を完成させる所存です。今後ともよろしくお願申し上げます。(飛田)

【野田建築 50 周年特別企画】 歴代メンバー紹介

過去の卒業アルバムから研究室の写真を集めて掲載します。2009 年からカラーになっています。(永野)

井口研究室 1977 年～ 1986 年 (卒業年)



1977 年

B4/ 飯酒丞茂幸, 小滝亘, 高橋悠介, 武田藏人, 藤田潔雄, 守屋悟志, 藪内昭男, 吉田健治, 研究生 / 佐々木良司, 助手 / 岡村昇 (9 月まで), 森下誠 (10 月から)



1978 年

B4/ 榎本修, 小泉久明, 塚本繁, 新村和弘, 原田伸夫, 張ヶ谷昭彦, 古河司, 村松允司, 助手 / 森下誠



1979 年

B4/ 市原嗣久, 古閑之博, 芝藤貴彦, 清家哲, 和知富士男, M1/ 古河司, 村松允司, 助手 / 森下誠



1980 年

B4/ 上原修, 葛見久光, 小池清一, 近藤英雄, 柴田康弘, 杉浦泰輔, 竹田将夫, 藤井隆, 細野努, 牧宏友, 間仁田洋輔, 森田恵介, M2/ 古河司, 村松允司, 助手 / 森下誠



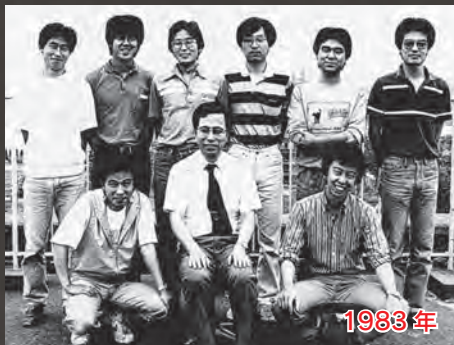
1981 年

B4/ 池田匠, 鈴木誠司, 鈴木武志, M1/ 杉浦泰輔, 竹田将夫, 助手 / 森下誠



1982 年

B4/ 磯部辰行, 柿島佳弘, 高橋政夫, 長谷川新祐, M2/ 杉浦泰輔, 竹田将夫, 助手 / 森下誠



1983 年

B4/ 石本裕臣, 大橋守, 岡本雄介, 小野邦晃, 神谷隆, 長谷吉洋, 三浦幹広, 山本篤志



1984 年

B4/ 猪狩正俊, 大竹剛, 片岡裕, 神子雄二, 梶浩孝, 鈴木雅喜, 平良修, 本間正之, 盛口貴司, 吉田由典

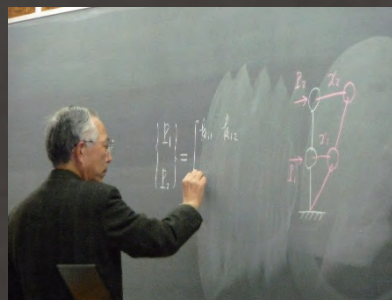


1985 年

B4/ 栗飯原功一, 青木博, 新井浩史, 市野雅之, 上田岳洋, 高橋強, 丹下誠治, 塚本義文, 涌井栄治, M1/ 神子雄二

1972 年～ 1976 年卒業時・研究室メンバー

1972 年	B4/ 今井俊夫, 久郷寛芳, 戸内順一, 長場恵
1973 年	B4/ 中川三夫, 野中行雄, 平井清孝, 宮丸吉郎, 松田徳治, 領木夫久美
1974 年	B4/ 岡崎利正, 藤代茂, 星野文男, 森下誠, 助手 / 岡村昇
1975 年	B4/ 儒田眞幸, 麦嶋良春, M1/ 森下誠, 助手 / 岡村昇
1976 年	B4/ 佐々木卓司, 佐々木良司, 宮宅勇二, M2/ 森下誠, 助手 / 岡村昇



井口先生・大学院最終講義の様子 (2011 年 1 月 17 日)



1986 年

B4/ 池本雅英, M1/ 涌井栄治, M2/ 神子雄二

井口研究室 1987年～1996年 (卒業年)



1987年

B4/ 加藤泰正, 佐々木満義, 寺澤潔, 中村吉則, M1/ 佐藤立, M2/ 涌井栄治



1988年

B4/ 浅谷輝暁, 石田雅基, 上野外茂治, 神山暁, 菊地雅裕, 佐野剛志, 千葉孝之, 土屋宏嗣, 野田真一, 花村正樹, 東小川浩一, M1/ 寺澤潔, M2/ 佐藤立, 助手 / 涌井栄治



1989年

B4/ 黒須隆雄, 東海林哲, 高杉俊文, 中村光司, 淵本正樹, 吉岡真和, M1/ 花村正樹, M2/ 寺澤潔, 助手 / 涌井栄治



1990年

B4/ 池田竜介, 小山明宏, 酒井泰彦, 朴泰勲, M1/ 淵本正樹, M2/ 花村正樹, 助手 / 涌井栄治



1991年

B4/ 荒木健史, 大滝昇, 北村公一, 小林弘典, 下田健一, 高橋政人, M1/ 池田竜介, M2/ 淵本正樹



1992年

B4/ 豊田一, 萩原義一, 濱田修一郎, 浜口信司, 横山満, M1/ 小林弘典, M2/ 池田竜介



1993年

B4/ 池田充弘, 井上史郎, 小木曾育高, 奥田匡, 喜納完仁, 河野修, 坂本晃, M1/ 濱田修一郎, 横山満, M2/ 小林弘典



1994年

B4/ 石川裕視, 伊藤聡央, 大庭正俊, 桂雅裕, 中村淳一, 加藤直子, 吉田健一, 吉田洋之, M1/ 井上史郎, 小木曾育高, M2/ 濱田修一郎, 横山満



1994年度ゼミの様子



1995年

B4/ 浅見光宏, 麻生政司, 石川浩路, 岡本幸弘, 奥住誠, 角田宜優, 清山俊雄, 沼田茂, M1/ 加藤直子, 吉田健一, 吉田洋之, M2/ 井上史郎, 小木曾育高



1996年

B4/ 家村秀史, 井山淳, 奥谷哲也, 木田英範, 佐藤誠子, 平岡佳樹, 平木隆文, M1/ 麻生政司, 角田宜優, M2/ 加藤直子, 吉田健一, 吉田洋之

井口研究室 1997年～2008年 (卒業年)



1997年

B4/ 飯島健次, 植竹秀哲, 小栗良輔, 黒岡正嗣, 橋爪卓博, 吉井頭一, 渡健一, M1/ 井山淳, 木田英範, 佐藤誠子, 平木隆文, M2/ 麻生政司, 角田宜優



1998年

B4/ 岩田俊久, 有働武, 宇波桃子, 鹿間大, 野崎真紀, 樋口聡史, 平川史明, 福田朋直, 本間祐介, 吉川資治, M1/ 植竹秀哲, 小栗良輔, M2/ 井山淳, 木田英範, 佐藤誠子, 平木隆文



1999年

B4/ 重藤彩, M1/ 岩田俊久, 宇波桃子, 本間祐介, M2/ 植竹秀哲, 小栗良輔, 助手/ 武藤尊彦



2000年

B4/ 大澤太郎, 奥山仁史, 鹿島善孝, 小泉知範, 佐藤由尚, 佐土平淳美, 芝山将太, 高桑由里子, 戸井希, 永吉理恵, 福岡弘之, 藤井尚之, 我妻瞬仁, M2/ 岩田俊久, 宇波桃子, 本間祐介, 助手/ 武藤尊彦



2001年

B4/ 天野太一郎, 小椋一依, 小松卓司, 庄野喬之, 須田梨紗子, 高崎拓也, 續木雅也, 山本耕司, M1/ 大澤太郎, 戸井希, 助手/ 武藤尊彦



2002年

B4/ 石橋弘光, 市川陽一, 内海裕太, 亀崎史暁, 西正太郎, M1/ 庄野喬之, 續木雅也, 山本耕司, M2/ 大澤太郎, 戸井希, 助手/ 武藤尊彦



2003年

B4/ 片岸悦朗, 戸根弘希, 小山直丈, 清水哲仁, 鈴木玄樹, 渡邊匡論, M1/ 市川陽一, 内海裕太, M2/ 庄野喬之, 續木雅也, 山本耕司, 助手/ 武藤尊彦



2004年

B4/ 石川智美, 竹内聡志, 中條貴行, 平嶋しえな, M1/ 片岸悦朗, 戸根弘希, 小山直丈, 渡邊匡論, M2/ 市川陽一, 内海裕太



2005年

B4/ 遠藤耕平, 太田智也, 小川英記, 川島学, 佐藤利昭, 富田昌宏, 中野新介, 本部明大, 前田直道, 中村章二, M1/ 石川智美, 竹内聡志, 中條貴行, M2/ 片岸悦朗, 戸根弘希, 小山直丈, 渡邊匡論, 助手/ 小室達也



2006年

B4/ 妹尾健司, M1/ 太田智也, 小川英記, 川島学, 佐藤利昭, 富田昌宏, 中野新介, M2/ 石川智美, 竹内聡志, 中條貴行, 助手/ 小室達也



2007年

B4/ 羽二生信之, 宮田享弥, M2/ 太田智也, 小川英記, 川島学, 佐藤利昭, 富田昌宏, 中野新介, 助手/ 小室達也



2008年

B4/ 小島正也, 高橋直紀, 花木現, 助手/ 小室達也

永野研究室 2009年～2017年 (卒業年)



2009年

B4/ 鶴田大智, 東山恵, 山崎聡, 森元晴香



2010年

B4/ 伊東歩, 榎本賢悟, 小倉あかり, 丹野裕大, 青木拓哉, 小山哲央, M1/ 趙建菁



2011年

B4/ 五十嵐雄貴, 入谷友也, 北嶋聡明, 小森波太郎, 坂井拓郎, 長沼和夫, 西村怜司, 肥田知之, 山田遼太, 中村亮輔, M1/ 青木拓哉, 小山哲央, M2/ 趙建菁



2012年

B4/ 秋元沙織, 石崎恵介, 宇都宮環, 奥田正幸, 小堀剛志, 響谷彰太, 平柳亮介, 濱田孝之, 松永望, 松村早佑美, 連辰徳, 加藤惇, 吉田昂希, M1/ 中村亮輔, M2/ 青木拓哉, 小山哲央, 助教 / 肥田剛典



2013年

B4/ 田村遼, 遠藤正都, 河島央, 下保亮太, 野木淑裕, 服部広太郎, 後藤賢人, 谷田貝淳, 山根義康, M1/ 加藤惇, 吉田昂希, M2/ 中村亮輔, PD 研究員 / 佐藤利昭, 助教 / 肥田剛典



2014年

B4/ 岩岸啓太, 大谷祥平, 伝谷友介, 成田麻衣子, 濱口武尊, 原田知典, 酒井美月, 坂本あいの, 天藤潤一, 渡邊藤一郎, M1/ 後藤賢人, 谷田貝淳, 山根義康, M2/ 加藤惇, 吉田昂希, 助教 / 肥田剛典



2015年

B4/ 秋元宏章, 太田成昭, 奥野通太郎, 尾崎哲也, 加茂下直明, 河野陸哉, 金宰ソク, 小宮山征義, 成島慶, 橋本拓磨, 藤田俊明, 堀愛里香, 三笠睦実, 林松, M1/ 酒井美月, 坂本あいの, 天藤潤一, 渡邊藤一郎, M2/ 後藤賢人, 谷田貝淳, 山根義康, 助教 / 肥田剛典 (2014年10月まで)



2016年

B4/ 五百森隆大, 石塚尚美, 佐々木茅乃, 佐藤明澄, 佐藤航平, 滝脇通, 田中亮磨, 西野剛史, 橋本由樹, 羽部香帆, 水谷真識, 渡邊公平, M1/ 金宰ソク, 小宮山征義, 成島慶, 橋本拓磨, M2/ 酒井美月, 坂本あいの, 天藤潤一, 渡邊藤一郎, 助教 / 鈴木賢人



2017年

B4/ 秋元潤, 小江優斗, 岡野一樹, 小川一真, 神戸寛史, 佐藤弘樹, 田代信雄, 日野浦雄高, 山下圭吾, 渡辺真伍, M1/ 佐々木茅乃, 佐藤航平, 田中亮磨, 西野剛史, M2/ 金宰ソク, 小宮山征義, 成島慶, 橋本拓磨, 助教 / 鈴木賢人

永野研究室・活動ピックアップ(1) 各種受賞報告

おめでとう
ございます!

鈴木賢人助教
日本建築学会
2017年度奨励賞受賞!!



2017年日本建築学会各賞の発表が行われ、永野研究室・助教の鈴木賢人氏が『立体偏心を有する2層1軸偏心木質架構の振れ応答に関する実験研究』で、2017年日本建築学会奨励賞を受賞しました。当該賞は、40歳以下の研究者を対象に、近年中に発表された独創性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績に与えられるものです。永野研究室では、前助教の肥田剛典氏(現・東京大学大学院・助教)に続く受賞となりました。(永野)

渡辺哲史氏(小堀鐸二研究所)
日本建築学会
2017年度奨励賞受賞!!



永野研究室で2015年に博士(論文)を取得した渡辺哲史氏(小堀鐸二研究所)が『南海トラフ沿いの付加体および震源位置が東京の長周期地震動に及ぼす影響』で、2017年日本建築学会奨励賞を受賞しました。同論文は博士論文の内容の一部であり、南海トラフ沿いの付加体が関東平野の長周期長時間地震動に与える影響を、観測記録と当研究室で開発してきた3次元差分法を用いて丁寧分析したものであります。(永野)

B4 日野浦雄高君(現 M1) 学業優秀賞+卒業論文賞 受賞!!
B4 神戸寛史君(現 M1) 学業優秀賞 受賞!!

2016年度卒業式で、当研究室の日野浦雄高君と神戸寛史君が学業優秀賞を、日野浦雄高君が卒業論文賞(優秀賞)を受賞しました。おめでとうございます!! 大学院での活躍を期待しています。(永野)



左・日野浦君、右・神戸君

今回受賞した卒業論文は、『超高層RC造集合住宅を対象とした多質点汎用モデルの構築と2016年熊本地震時の建物応答推定』といった題目で書かせていただきました。ご指導いただいた永野先生・鈴木先生、多くのご助言を下さった皆様、調査に協力していただいた方々のおかげで受賞することができました。深く心より感謝申し上げます。(M1 日野浦雄高)

この度は、学業優秀賞を頂き、大変嬉しく思います。ご指導いただいた先生方や日頃から支えてくださった家族や友人の方に、この場をお借りして御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、より一層研究活動に精進します。(M1 神戸寛史)

永野研究室・活動ピックアップ(2) — 2016年度ゼミ合宿@福岡・長崎を振り返って—

2016年度のゼミ合宿は、8月24日から28日の5日間にかけて、福岡と長崎で行われました。初めの3日間は、福岡大学で開催された日本建築学会大会を聴講しました。初めて参加する学術大会の雰囲気ですっかり圧倒されてしまいましたが、その中でも堂々と発表する先輩方の様子はとても頼もしく感じられました。来年は自分達もこの場で発表するという緊張感を持ちながら、講演者の発表や質疑応答の様子を見ていました。

大会後は長崎に移動し、翌日(27日)の早朝から理科大の伊藤研・今本研と合同で軍艦島を見学しました。軍艦島は昭和中期まで炭鉱で栄えた島です。2015年に世界文化遺産に登録されたことは記憶に新しいと思いますが、日本で初期のRC造集合住宅が建ったことでも有名です。閉山後40年がたち、これら建物の老朽化・崩壊は相当なものでしたが、それでもいまだに力強く建つ遺構の中には、当時の活気ある生活の様子をおおわせるような跡(中学校や遊戯施設跡)が残されていました。当時の重要な歴史財産を拝見する貴重な機会だったと思います。その後本島に戻り、四海樓にて本場の長崎ちゃんぽんを食べました。夜には稲佐山(長崎市)の山頂へ上り、眼下に広がる長崎市内の夜景を鑑賞しました。残暑の厳しい頃でしたが、それでも夜の山頂は非常に涼しく、その心地の良さや「地上の銀河」とも呼ばれる夜景の美しさで、翌日に控えた中間発表もすっかり忘れ(?)ていました。

最終日の28日には、いよいよB4生の中間発表が行われました。4月からの研究成果を研究室メンバー全員の前で発表しました。非常に緊張しながらの発表でしたが、その後の質疑応答では先生方や先輩方からの的確なアドバイスをいただきました。研究内容だけでなくとどまらず、発表の仕方や資料作成等に至るまで、発表を通じて多くのことを勉強させていただきました。

今年度の建築学会は広島で開催されます。いよいよ自分達も学会発表をしますが、後輩たちの良い手本となれるように精一杯頑張ります。また、今年度のゼミ合宿は、香川県にある直島の観光を予定しています。直島は「アート島」とも呼ばれ、多くの建築やアート作品が展示されていると伺っています。今年のゼミ合宿も今から楽しみです。

(M1 神戸寛史, M1 日野浦雄高)



OB/OGの皆様と



軍艦島ツアー発着場にて



四海樓にて本場のちゃんぽんを食べる



ドキドキのB4生中間発表

永野研究室 2016年度活動(抜粋)

2016.4.9 卒研配属 / 4.16 研究室歓迎会 / 4.17 熊本地震被害調査 / 5.1 熊本地震被害調査2回目 / 5.21 熊本地震超高層マンションアンケート調査(B4UR班) / 5.25 熊本地震木造被害調査 / 7.28- 天井加力実験・つくば / 8.20-26 世界木質構造会議・ウィーン(鈴木・他) / 8.23 日本建築学会大会・福岡 / 8.25 地域交流会・福岡 / 8.27-28 ゼミ合宿・長崎, 軍艦島, B4中間発表 / 9.17 耐力壁ジャパンカップ・富士(B4木造班) / 9.24 第3回なみの会 / 9.25-27 日本地震工学会・高知 / 10.1 防災リスク管理コースキックオフミーティング / 10.16 「理工系の基礎 建築学」出版記念講演会 / 11.11 大林組技術研究所見学 / 12.2 地盤震動シンポジウム / 12.9UR 技術研究所見学 / 12.19 研究室忘年会 / 2017.1.6-15 世界地震工学会議・サンチャゴ / 1.17 鹿島技術研究所見学 / 2.2 震災対策技術展・セミナー・横浜 / 2.7 卒論提出 / 2.8 修論提出 / 2.15 卒論審査会 / 2.16 修論審査会 / 2.27UR 研究会報告会 / 2.28 木造研究会報告会 / 3.9 建築研究所講義 / 3.18 卒業式・研究室打ち上げ

2016年度永野研究室 発表論文等成果 (その1)

【超高層集合住宅関連・査読論文】

酒井美月, 永野正行, 鈴木賢人, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田 聡: 建物・杭・地盤の一体モデルによる超高層 RC 造建物のシミュレーション解析及び想定地震時の耐震性能評価, 日本建築学会構造系論文集, 第 82 巻, 第 732 号, pp.171-181, 2017.2

K. Suzuki, M. Nagano, A. Sakamoto, T. Watanabe, K. Narushima: Damage trends in residential RC building after 2015 Nepal earthquake, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No.3278, Santiago, Chile, 2017.1.9-13, CasaPiedra Convention Center

山本健史, 保井美敏, 永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦: 地盤一杭一建物の動的相互作用を考慮した超高層集合住宅の地震応答解析による 2011 年東北地方太平洋沖地震の観測記録の再現, 日本地震工学会論文集 (特集号), 第 16 巻第 8 号, pp.75-81, 2016.7

永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 中村充, 井川望, 保井美敏, 境茂樹, 森下真行, 北堀隆司, 上林宏敏: 強震下の超高層集合住宅の挙動解明と今後の被害低減に向けた取り組み, 日本地震工学会論文集 (特集号), 第 16 巻第 5 号, p.2-11, 2016.4

上林宏敏, 永野正行, 釜江克宏, 川辺秀憲: 超高層 RC 造の長周期地震動による損傷度の簡易評価指標, 日本地震工学会論文集 (特集号), 第 16 巻第 5 号, p.33-45, 2016.4

【超高層集合住宅関連・発表等】

永野正行: 大地震時に超高層ビルはどのように揺れるか, こうよう会北海道支部, 札幌駅前ビジネススペース カンファレンスルーム 2I, 2016.11.05

成島慶, 永野正行, 鈴木賢人: 2016 年熊本地震時の国内超高層 RC 造集合住宅の最大平均層間変形角分布に関する分析, 日本地震工学会・大会 - 2016 梗概集, P3-17, p.9, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

渡辺眞伍, 日野浦雄高, 岡野一樹, 鈴木賢人, 永野正行: 2016 年熊本地震を対象としたアンケート調査に基づく超高層 RC 造集合住宅の室内被害その 2 (熊本, 久留米, 福岡の室内被害の比較), 日本地震工学会・大会 - 2016 梗概集, P3-12, p.8, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

日野浦雄高, 渡辺眞伍, 岡野一樹, 鈴木賢人, 永野正行: 2016 年熊本地震を対象としたアンケート調査に基づく超高層 RC 造集合住宅の室内被害 (その 1 3.11 本震時の首都圏との比較), 日本地震工学会・大会 - 2016 梗概集, P3-11, p.8, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

永野正行, 肥田剛典, 坂本あいの, 鈴木賢人: 大地震時における室内の小物の散乱状況に基づく超高層集合住宅の建物床応答推定, 日本地震工学会・大会 - 2016 梗概集, P1-39, p.6, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

金子知宜, 西野剛史, 北堀隆司, 田沼毅彦, 成島慶, 鈴木賢人, 肥田剛典, 永野正行, 小田聡: 超高層 RC 造建物データベースに基づく設計用振動解析モデルと地震応答特性に関する研究 (その 1 建物の基本情報と構造特性の分析), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23168, 構造 IV, pp.335-336, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

西野剛史, 北堀隆司, 成島慶, 田沼毅彦, 小田聡, 肥田剛典, 鈴木賢人, 永野正行: 超高層 RC 造建物データベースに基づく設計用振動解析モデルと地震応答特性に関する研究 (その 2 設計用振動解析モデルの高さ方向分布と地震応答特性の分析), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23169, 構造 IV, pp.337-338, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

北堀隆司, 西野剛史, 成島慶, 肥田剛典, 永野正行, 鈴木賢人, 田沼毅彦, 小田聡, 時本和則: 超高層 RC 造建物データベースに基づく設計用振動解析モデルと地震応答特性に関する研究 (その 3 非線形応答解析結果に基づく建物の周期特性評価), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 23170, 構造 IV, pp.339-340, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

李尚元, 肥田剛典, 田沼毅彦, 小田聡, 永野正行, 高田毅士: 超高層建物の 2 点強震観測記録に基づく層剛性の高さ分布推定手法に関する実証的研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21483, 構造 II, pp.965-966, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

酒井美月, 永野正行, 鈴木賢人, 北堀隆司, 田沼毅彦, 小田聡: 2011 年東北地方太平洋沖地震を経験した超高層 RC 造建物の本震及び余震時の杭応力評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21423, 構造 II, pp.845-846, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

成島慶, 永野正行, 鈴木賢人, 田沼毅彦, 小田聡, 上林宏敏: 超高層集合住宅を対象としたデータベースの構築と大地震を想定した被災度マップ作成のための基礎研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21364, 構造 II, pp.727-728, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

鯉淵将成, 出水俊彦, 佐藤利昭, 永野正行, 北村春幸: 文献調査に基づく板状平面形を有する超高層 RC 造免震住宅建物の構造特性の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21247, 構造 II, pp.493-494, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

永野正行, 鈴木賢人: 構造形式の違いに着目した 2011 年東北地方太平洋沖地震時の超高層集合住宅の体感と室内被害調査, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21022, 構造 II, pp.43-44, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

坂本あいの, 鈴木賢人, 金子知宜, 田沼毅彦, 小田聡, 肥田剛典, 永野正行: 振動台搭乘実験に基づく超高層集合住宅居住者の地震時の体感に関する検討 その 4 姿勢の違いによる体感と人間頭部の応答の比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21021, 構造 II, pp.41-42, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

永野正行: 2016.4.7 読売新聞夕刊, 科学, 高層階ほど大きく長い揺れ, 長周期地震動

【地盤震動関連・査読論文】

T. Hashimoto, M. Nagano, K. Kato, Y. Ohtsuka, T. Uetake, K. Hikima: STRUCTURAL RESPONSE DUE TO SUPERSHEAR AND SUBSHEAR RUPTURE BASED ON DYNAMIC RUPTURE MODEL, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No.2816, Santiago, Chile, 2017.1.9-13, CasaPiedra Convention Center

Nagano, M., Tendo, J and Uebayashi, H.: CONSTRUCTIVE INTERFERENCE OF LONG-PERIOD SEISMIC WAVES IN HORIZONTAL PLANE IN URBANIZED AREA DURING 2011 TOHOKU EARTHQUAKE IN JAPAN, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No.782, Santiago, Chile, 2017.1.9-13, CasaPiedra Convention Center

永野正行: 分離型解法に基づく浅部地盤の地震動増幅に及ぼす深部地盤の影響と改良計算法の検証, 日本建築学会構造系論文集, 第 81 巻, 第 730 号, pp.1975-1982, 2016.12

天藤潤一, 永野正行, 鈴木賢人: 東北地方太平洋沖地震時の伊勢湾沿岸部における長周期地震動の再現解析と S 波入射方向による地盤増幅特性, 日本建築学会技術報告集, 第 22 巻, 第 52 号, pp.891-896, 2016.10

渡辺哲史, 加藤研一, 永野正行: 南海トラフ沿いの付加体が中京地区の長周期地震動に及ぼす影響, 日本建築学会技術報告集, 第 22 巻, 第 52 号, pp.885-889, 2016.10

後藤賢人, 永野正行, 吉村智昭, 久田嘉章, 河路薫, 川辺秀憲, 早川崇, 田原道崇, Seckin Ozgur Citak: 数値解析手法のベンチマークテスト - 2004 年紀伊半島南東沖地震前を対象とした関東平野の結果 -, 日本地震工学会論文集 (特集号), 第 16 巻第 8 号, pp.2-12, 2016.7

【地盤震動関連・発表等】

永野正行: 2016 年熊本地震から首都圏の住民が学ぶこと - 建築構造の専門家と市民との対話 -, コーディネーター, まとめ, 第 21 回震災対策技術展 (横浜) 関連シンポジウム, パシフィコ横浜・アネックスホール J 会場, 2017.2.2

永野正行: 2016 年熊本地震の揺れと建物被害の特徴 - 国内最大級の大きな揺れによる建物被害 -, 理大科学フォーラム, 392 号, pp.24-29, 2017.1

永野正行: 主旨説明, 第 44 回地盤震動シンポジウム (2016), 2016 年熊本地震で何が起きたか, pp.1-2, 2016.12.2, 建築会館ホール, 東京

永野正行: 過去の被害地震と熊本地震の共通点・相違点, 第 44 回地盤震動シンポジウム (2016), 2016 年熊本地震で何が起きたか, pp.72-81, 2016.12.2, 建築会館ホール, 東京

金幸ソク, 永野正行: 東京湾沿岸部の浅部地盤による地震動の 2 次元増幅効果の検討, 日本地震工学会・大会 - 2016 梗概集, P4-34, p.6, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

2016年度永野研究室 発表論文等成果 (その2)

長郁夫, 上林宏敏, 大堀道広, 永野正行: 不整形地盤構造への各種微動探査手法の適用性に関する数値実験 (その1 段差・傾斜基盤構造モデルにおける SPAC/CCA 法の適用例), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21556, 構造Ⅱ, pp.1111-1112, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

大堀道広, 上林宏敏, 長郁夫, 永野正行: 不整形地盤構造への各種微動探査手法の適用性に関する数値実験 (その2 段差・傾斜基盤構造モデルにおける FK 法の適用例), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21557, 構造Ⅱ, pp.1113-1114, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

天藤潤一, 鈴木賢人, 永野正行: 濃尾平野における S 波入射方向による長周期地震動の空間変動, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21523, 構造Ⅱ, pp.1045-1046, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

佐々木茅乃, 永野正行, 天藤潤一, 鈴木賢人: 差分法に基づく東北地方太平洋沖地震時の関東平野における長周期地震動の再現精度に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21521, 構造Ⅱ, pp.1041-1042, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

小山哲史, 永野正行: 水平成層地盤を対象とした平面波斜め入射時の時刻歴応答解析の定式化と検証, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21520, 構造Ⅱ, pp.1039-1040, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

【木造関連・査読論文】

T. Hida, T. Sato, M. Nagano: Study on Structural Health Monitoring Method by Recursive Subspace Identification Based on Shaking Table Tests of Wooden Structure, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No.913, Santiago, Chile, 2017.1.9-13, CasaPiedra Convention Center

渡邊藤一郎, 佐藤利昭, 中島裕貴, 鈴木賢人, 永野正行: 木材の粘弾性の簡易試験法と 3 要素モデルによる特性化, 日本建築学会技術報告集, 第 22 巻, 第 52 号, pp.947-952, 2016.10

Masayoshi Komiyama, Toshiaki Sato, Toichiro Watanabe, Takenori Hida, Kento Suzuki, Yuichiro Masaki, Michio Iguchi, Masayuki Nagano: Experimental Study on Structural Response of Two Story Houses Focusing on Dynamic Characteristics of Each Story, World Conference on Timber Engineering (WCTE2016), HS7, August 22-25, 2016, Vienna, Austria

Ryoma Tanaka, Toichiro Watanabe, Toshiaki Sato, Kento Suzuki, Masayuki Nagano: Fundamental Study on Simple Compression Test and Stress Relaxation Characteristics of Wood, World Conference on Timber Engineering (WCTE2016), HS47, August 22-25, 2016, Vienna, Austria

【木造関連・発表等】

鈴木賢人, 永野正行: 2016 年熊本地震における木造住宅の地震応答と複数回の地震動入力による建物応答に与える影響に関する一検討, 日本地震工学会・大会-2016 梗概集, P3-20, p.8, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

佐藤利昭, 渡邊藤一郎, 鈴木賢人, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究その 7 ボルト軸力の応力緩和と温度の変化, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22040, 構造Ⅲ, pp.79-80, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

渡邊藤一郎, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究 その 6 温度を試験変数とした応力緩和試験, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 22039, 構造Ⅲ, pp.77-78, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

【動的相互作用等・査読論文】

山形有紀, 佐藤利昭, 永野正行, 北村春幸: 擁壁衝突時に励起される積層ゴムの上下応答と諸要因の影響評価, 日本建築学会構造系論文集, 第 82 巻, 第 733 号, pp.371-381, 2017.3

T. Yamauchi, H. Kitamura, M. Nagano, T. Sato, K. Suzuki: Dynamic Characteristics of Buildings Constructed by Pile Top Seismic Isolation System Considering Nonlinearity of Laminated Rubber Bearing, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No.1275, Santiago, Chile, 2017.1.9-13, CasaPiedra Convention Center

山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 飛田喜則: 地震応答解析による杭頭免震建物の動的特性に関する研究 動的挙動を考慮した積層ゴムの力学特性の評価, 日本建築学会構造系論文集, 第 81 巻, 第 730 号, pp.2025-2036, 2016.12

【動的相互作用等・発表等】

飛田喜則, 永野正行, 北村春幸, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 山内豊英: 2011 年東北地方太平洋沖地震時の観測記録に基づく傾斜基盤構造に建つ免震建物の地震応答特性 その 1 観測記録に基づく建物の挙動, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21230, 構造Ⅱ, pp.589-590, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

宮原直樹, 永野正行, 北村春幸, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 飛田喜則: 2011 年東北地方太平洋沖地震時の観測記録に基づく傾斜基盤構造に建つ免震建物の地震応答特性 その 1 観測記録に基づく建物の挙動, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21229, 構造Ⅱ, pp.587-588, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人, 飛田喜則: 杭頭免震建物における積層ゴムの水平剛性と反曲点移動の地震応答解析による評価 その 2 積層ゴムの反曲点移動に伴う曲げモーメントの分配, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21230, 構造Ⅱ, pp.459-460, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

中澤敏樹, 山内豊英, 北村春幸, 永野正行, 佐藤利昭, 鈴木賢人: 杭頭免震建物における積層ゴムの水平剛性と反曲点移動の地震応答解析による評価 その 1 積層ゴムの水平剛性, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21229, 構造Ⅱ, pp.457-458, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

山形有紀, 佐藤利昭, 永野正行, 北村春幸: 擁壁衝突時に励起される免震建物の上下応答に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 21263, 構造Ⅱ, pp.525-526, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

【非構造部材・発表等】

佐藤航平, 石原直, 永野正行, 鈴木賢人: 観測波に対する弾塑性床応答スペクトルの評価式の改良, 日本地震工学会・大会-2016 梗概集, P1-37, p.7, 2016.9.26-27, 高知工科大学永国寺キャンパス, 高知県

佐藤航平, 石原直, 鈴木賢人, 永野正行: 告示波に対する多層建物の弾塑性床応答スペクトルの略算法に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 20435, 構造Ⅰ, pp.869-870, 2016.8.24-26, 福岡大学, 福岡県

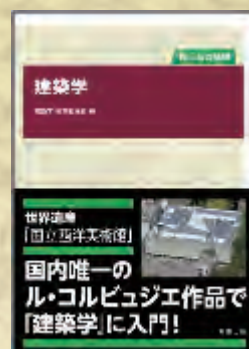
【著書】

永野正行, 分担執筆 (建築学編集委員会): 理工系の基礎 建築学-国立西洋美術館に学ぶ-, 丸善出版, 2016.10

【その他・発表等】

永野正行: 本書の構成, 東京理科大学オリジナル教科書『理工系の基礎 建築学-国立西洋美術館に学ぶ-』出版記念講演会, 2016.10.16, 東京理科大学 2 号館 211 教室

永野正行: 理工系の基礎 建築学-国立西洋美術館に学ぶ-, 理大科学フォーラム, 392 号, pp.18-19, 2017.1



これから建築を学ぶ大学新入生や, 将来建築を目指す高校生向けのテキストとして, 理工大建築学科教員が手がけた『建築学-国立西洋美術館に学ぶ-』が2016年10月に刊行されました。永野は編集委員会の委員長としてとりまとめを行っております。建築学科1年の教科書としても利用されています。皆様もぜひ手にとってご覧ください。(永野)

井口・永野研 OB/OG の皆様へ
『野田建築 50 周年大同窓会』 2017 年 10 月 29 日(日)
 in 野田キャンパス
 開催のお知らせと事前参加申し込みのお願い

平成 29 年度に東京理科大学理工学部は創設 50 周年を迎えます。建築学科でも野田建築会と合同で、50 周年記念誌の発行、記念デザインコンペ、OB の特別講演、利根運河シアターナイトへの協賛など、様々なイベントを『野田建築 50 周年記念事業』として実施、予定しております。

10 月 29 日(日)に、理工学部建築学科と OB 会組織である野田建築会の合同主催で『野田建築 50 周年大同窓会』を開催いたします(ホームカミングデー 2017 と同時開催)。

本年度の『なみの会』は『野田建築 50 周年大同窓会』と合同開催にしたいと思います。

これを機に、久しぶりに野田キャンパスにお越し頂き、恩師、友人たちとの交流、横の繋がり、縦の繋がりを深めてください。

詳細は、以下の『野田建築 50 周年記念事業』特設 HP ページをご覧ください。

<http://www.ar.noda.tus.ac.jp/50th/next.html> ← **UNGA NEXT** で検索

『野田建築 50 周年大同窓会』懇親会(17:30- コミュニケーション棟、下記の地図②)への事前参加申し込みは、同封の振込用紙、もしくは上記特設 HP の申し込みサイトよりお願いいたします。

卒業生 事前申し込み 8,000 円(9 月 22 日まで)

懇親会参加者には野田建築 50 周年記念誌『UNGA NEXT』を進呈いたします。



なみの会事務局 iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp
 278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部建築学科
 永野研究室(担当: 永野正行, 涌井栄治, 鈴木賢人)